

○計画期間：平成28年4月～令和3年3月（5年）

I 中心市街地全体に係る評価

1 平成30年度終了時点（平成31年3月31日時点）の中心市街地の概況

明石市中心市街地活性化基本計画（平成28年3月15日内閣総理大臣認定）は、「「海・食・時」のまちに更なる魅力を創造し賑わいあふれるまちへ」を基本コンセプトとし、前基本計画から引き続き「便利で暮らしやすいまち」「一歩足を伸ばして楽しめるまち」を重点目標に設定し、行政と民間が協働してまちづくりに取り組んでいる。

平成30年度は、計画期間の3年目にあたり、「明石駅前南地区第一種市街地再開発事業」が完了し、「明石駅前再開発ビル（パピオスあかし）」の全面オープンから2年が経過した。「明石駅前再開発ビル（パピオスあかし）」の全面オープン初年度の賑わいを継続させるべく、官民一体となり、賑わいづくりに向けたソフト施策に積極的に取り組み、「あかし市民図書館」、「あかし市民広場」及び「あかしこども広場」等の公共施設の利用者が全面オープン初年度より増加する等、引き続き来街者が増え、賑わいが向上している。

さらに、商店街が連携し、主体となって定期的を開催している「明石まちなかバル」及び「春旬祭」等のイベント、大衆劇場「ほんまち三白館」の集客効果並びに各商店街の積極的な情報発信や「明石駅前再開発ビル（パピオスあかし）」、「アスピア明石」及び「ピオレ明石」が連携してイベントを実施する等、来街者数及び回遊性が向上している。

また、中心市街地内の地価公示及び地価調査は、明石駅周辺が上昇し、中心市街地内の駅から離れた地点が減少することなく横ばいで推移し、人口も増加し続けていることから、中心市街地区域全体としての魅力が向上している。

今後も行政と民間が連携しながら、中心市街地の賑わいを市内全体に波及させ、中心市街地はもとより、市域全体の発展に繋げていく。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

（基準日：毎年度1月1日）

（中心市街地区域）	平成27年度 （計画前年度）	平成28年度 （1年目）	平成29年度 （2年目）	平成30年度 （3年目）
人口	7,663人	7,697人	8,084人	8,220人
人口増減数	207人	34人	387人	136人
自然増減数	▲19人	24人	▲2人	▲10人
社会増減数	226人	10人	389人	146人
転入者数	506人	390人	598人	470人

2 平成 30 年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

平成 30 年度は、2019 年(平成 31 年)3 月 6 日に開催し、数値目標の結果報告等を行い、委員から次のとおり意見があった。

- ・ 順調に数値目標が達成されているが、まちの活性化は、直接的な数値には表れない間接的な数値もある。直接的な効果だけでなく、調査地点以外の状況や既存施設と新施設との関係等、間接的な効果について押さえておくことが重要である。
- ・ 商業活性化について、明石まちなかバル等も事業者等との相互協力により、明石らしいイベントとなっている。
- ・ 県が進めている明石港東外港地区再開発について、場所の特性をどう生かしていくか、ポテンシャルをどう生かしていくか、県だけでなく、県と市との連携が重要である。
- ・ 今年度、市政施行 100 年の節目を迎え、中核市となった明石市のまちの顔である中心市街地が発展軌道上にあるが、明石港東外港地区再開発をはじめ、更に中心市街地が変化することが予想される。中活計画の計画期間が残り 2 年間であることを踏まえ、各々の立場で中心市街地の更なる発展に協力していきたい。

II 目標ごとのフォローアップ結果

1 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
便利で暮らしやすいまち	都市福祉施設利用者数 (人/年)	452,001 (H26)	900,000 (R2)	1,415,487 (H30)	A	①	①
一歩足を伸ばして楽しめるまち	歩行者・自転車通行量 (人/日)	16,737 (H27)	20,000 (R2)	19,724 (H30)	B	①	①
	新規出店者数 (店/年)	12 (H27)	12 (H28~R2) (平均)	17 (H30) 21 (H28~30)	A	①	①

<基準値からの改善状況>

A：目標達成、B：基準値達成、C：基準値未達成

<取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。

②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。

④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2 目標達成見通しの理由

「都市福祉施設利用者数」については、平成30年4月から平成31年3月までの利用者数を合計している。「あかし市民図書館」については、オープン当初から目標値を超える利用が続いており、オープン2年目の平成30年度においてもオープン初年度とほぼ同水準の利用者数で推移し、目標値を大きく上回った。「あかしこども広場」については、「こどもを核としたまちづくり」の浸透等により、親子交流スペース「ハレハレ」等の利用者数が増加し、目標値を大きく上回った。「あかし総合窓口」については、取扱業務の増加及び着実な周知により、利用者数が増加し続けており、目標値とほぼ同水準となった。都市福祉施設全体の利用者数については、既に目標を達成している。都市福祉施設の利用者数は堅調であるため、目標達成は可能である。

「歩行者・自転車通行量」については、平成30年10月の調査結果を用いている。「明石駅前再開発ビル（パピオスあかし）」の集客効果による来街者の増加に伴い、回遊する者が増えたため、3年連続増加し、ほぼ目標値の水準となった。引き続き「明石駅前再開発ビル（パピオスあかし）」に訪れた人が国道2号南側の商店街区域まで足を伸ばしたくなるようなイベントを増やし、商店街の魅力を積極的に発信することにより、更なる回遊性の向上を推進し、通行量の増加を図ることにより、目標達成は可能と思われる。

「新規出店者数」については、平成30年10月の調査結果を用いている。「明石駅前再開発ビル（パピオスあかし）」完成による来街者の増加及び商業環境の向上により、各商店街で万遍なく新規出店があり、目標値を大きく上回っている。経済状況等不透明な外的要因により、新規出店が減少する可能性があるが、既に目標を達成している。

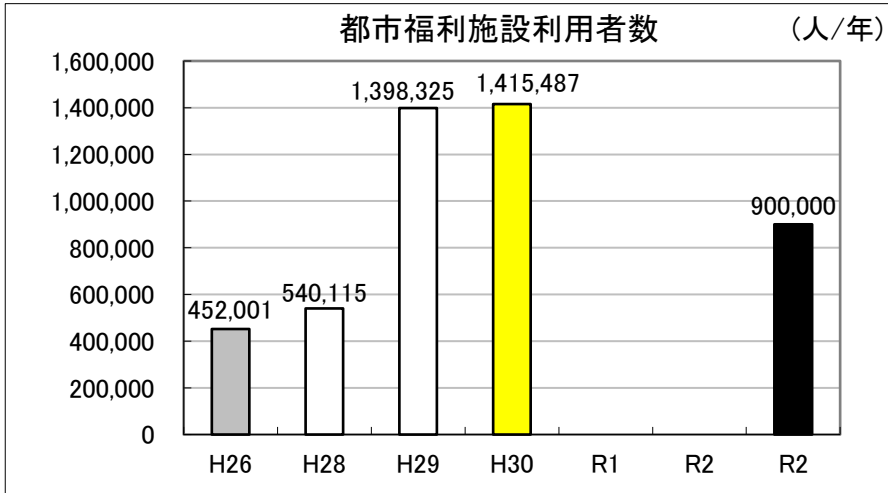
3 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回から変更はない。

4 目標指標ごとのフォローアップ結果

「都市福利施設利用者数」※目標設定の考え方基本計画 P62～P67 参照

●調査結果の推移



年	人/年
H26	452,001 (基準年値)
H28	540,115
H29	1,398,325
H30	1,415,487
R1	
R2	
R2	900,000 (目標値)

※調査方法：各都市福利施設の年間利用者数により算出

※調査日：平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

※調査主体：明石市

※調査対象：都市福利施設（「あかし市民図書館」「あかし子ども広場」「あかし総合窓口」）利用者

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

① あかし市民図書館整備事業（明石市）

事業実施期間	平成26年度～平成28年度【済】
事業概要	「明石駅前再開発ビル（パピオスあかし）」内に、「本のまち」という新たな明石の魅力を発信する拠点として市民図書館を整備し、市民等が憩う滞在型図書館として運営を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成29年1月27日にオープンした。旧図書館から収蔵数及び床面積が増加し、利便性が向上したため、幅広い世代の利用がある。平成30年4月に貸出冊数200万冊達成、平成30年12月に貸出冊数300万冊達成、平成31年3月に来館者数200万人達成した。平成30年度に来館者数は905,174人（平成29年度：940,884人）で、目標値650,252人を大きく上回っており、中心市街地の賑わいの中心となっている。
事業の今後について	平成28年度にハード事業完了。引き続きソフト事業である「本のまち明石関連事業」で「あかし市民図書館」の来館者の増加及び中心市街地の回遊性の向上に向けた施策を推進していく。

② あかしこども広場整備事業（明石市）

事業実施期間	平成 26 年度～令和 2 年度【実施中】
事業概要	「明石駅前再開発ビル（パピオスあかし）」内に子どもを中心とした多様な交流の創出や、健全な居場所となりまちを元気にするための拠点及び次世代の育成と子育て支援を促進するためのこども健やかひろばを整備し、プレイルームや子育て関連イベント等の運営を行う。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成30年度～令和2年度）
事業効果及び進捗状況	平成 29 年 4 月に全面オープンした。オープンから 2 年が経過し、口コミやリピート利用者により、「こども健康センター」、親子交流スペース「ハレハレ」及び中高生世代交流施設「AKASHI ユーススペース」等の利用者数がオープン初年度より増加している。平成 30 年度の利用者数は 358,959 人（平成 29 年度：327,094 人）で、目標値 98,304 人を大きく上回った。 「こどもを核としたまちづくり」を推進することにより、更なる利用者の増加が見込まれ、中心市街地の活性化に貢献している。
事業の今後について	平成 28 年度ハード事業完了。引き続き子育て関連イベント等ソフト事業を実施し、利用者の増加に向けた施策を推進していく。

③ あかし総合窓口整備事業（明石市）

事業実施期間	平成 26 年度～平成 28 年度【済】
事業概要	「明石駅前再開発ビル（パピオスあかし）」内に、市民の利用頻度が高い証明発行や保険、福祉等の行政窓口機能の整備・運営を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成 29 年 1 月 27 日にオープンした。「明石駅前再開発ビル（パピオスあかし）」内に利用頻度の高い行政窓口機能を整備することで、市民の利便性が向上し、幅広い世代の市民が行政窓口に行く際の負担を軽減できた。取扱業務の増加及び認知度の向上により、利用者数が増加し続けており、平成 30 年度の利用者数（取扱件数）は 151,354 件（平成 29 年度：130,347 件）で目標値 153,445 件の水準にほぼ達している。
事業の今後について	平成 28 年度事業完了。引き続き「あかし総合窓口」の取扱業務の多さ及び立地の良さ等の利便性を積極的に周知し、利用者の増加を図っていく。

●目標達成の見通し及び今後の対策

「明石駅前再開発ビル（パピオスあかし）」オープンから 2 年が経過した。

「あかし市民図書館」については、利用者数が移転前の約 3.3 倍目標値の約 1.4 倍となっており、本施設の利用者数のみで、都市福利施設利用者数全体の目標値を超えている。

「あかしこども広場」については、利用者数が 2 年連続増加しており、利用者数が目標値の約 3.7 倍となっている。

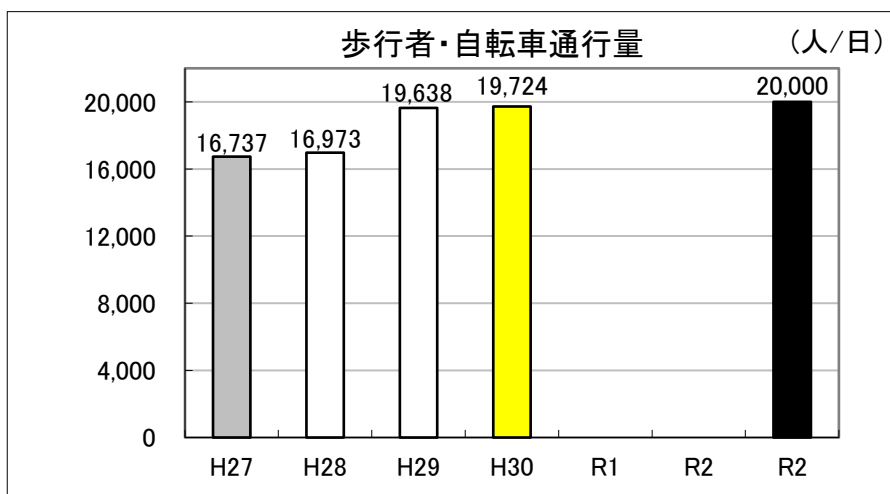
「あかし総合窓口」については、利用者数が 2 年連続増加しており、利用者数が移転前の約 2.4

倍で目標値とほぼ同水準となっている。

今後は、都市福利施設の運営内容の改善及び積極的な情報発信による周知を推進し、都市福利施設利用者数の増加を図っていく。併せて、都市福利施設を活用したイベントや周辺の商店街等と連携したイベントを実施し、更なる都市福利施設の利用者の増加を図ることにより、目標の達成は可能である。

「歩行者・自転車通行量」※目標設定の考え方基本計画 P69～P75 参照

●調査結果の推移



年	人/日
H27	16,737 (基準年値)
H28	16,973
H29	19,638
H30	19,724
R1	
R2	
R2	20,000 (目標値)

※調査方法：毎年 10 月ごろの休日及び平日の 10 時から 18 時まで中心市街地内に設定した 6 地点で歩行者・自転車通行量を調査する

※調査日：平成 30 年 10 月 28 日(日曜日)及び平成 30 年 10 月 29 日(月曜日)

※調査主体：明石市

※調査対象：中心市街地内 6 地点（国道 2 号南側商店街区域内）における歩行者・自転車通行量

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

① 明石駅前南地区第一種市街地再開発事業（明石駅前南地区市街地再開発組合）

事業実施期間	平成 23 年度～平成 28 年度【済】
事業概要	明石駅前において耐震性と床の有効活用に課題を残す建築物を共同化し、商業や行政サービス施設、高層住宅からなる中心市街地の拠点となる複合施設を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（平成 23 年度～平成 28 年度）
事業効果及び進捗状況	平成 28 年 12 月に「明石駅前再開発ビル（パピオスあかし）」が一部オープンした。商業施設、公共施設、医療モール及び住宅棟が入居する複合ビルであることから、集客効果が高く、中心市街地の核施設として、明石駅から国道 2 号南側の商店街地区を結び、中心市街地の活性化及び回遊性の向上の役割を担っている。 平成 29 年 4 月に「明石駅前再開発ビル（パピオスあかし）」が全面オープンした。集客効果が高く、幅広い世代の人が利用している。明石駅北側南側出入口の通行量については、再開発ビル整備完了前の平成 28 年度 31,261 人から平成 30 年度 47,352 人（平成 29 年度 39,061 人）と約 16,000 人増加しており、明石駅を出て中心市街地を訪れる人が増加している。
事業の今後について	平成 28 年度事業完了

② 国道 2 号立体横断歩行者道路整備（明石市）

事業実施期間	平成 20 年度～平成 28 年度【済】
事業概要	「明石駅前再開発ビル（パピオスあかし）」から国道 2 号南側までの国道 2 号を横断する立体横断デッキを整備する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（道路事業（街路）および一体の効果促進事業）（国土交通省）（平成 25 年度～平成 28 年度）
事業効果及び進捗状況	平成 28 年 12 月に供用開始した。老朽化した横断歩道橋を撤去し、幅員を 1.5m から 5 m に拡大し、エレベーター及び屋根を設置した立体横断デッキを新設した。明石駅から雨に濡れることなく「明石駅前再開発ビル（パピオスあかし）」を通して、魚の棚商店街に行くことが可能となり、横断歩道橋の通行量については、再開発事業開始前の平成 25 年度 1,021 人から平成 30 年度 5,183 人（平成 29 年度 4,554 人）と 4,162 人増加し、国道 2 号南側へ回遊性を向上させることができた。
事業の今後について	平成 28 年度事業完了

③ 明石港親水施設等整備事業（明石市）

事業実施期間	平成 28 年度～【実施中】
事業概要	フェリー乗り場跡地に隣接する市が寄贈を受けた栈橋などのプロムナード、高速船乗り場や水産物分場近くの休憩施設及び旧灯台の景観整備などの親水空間の整備を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	明石港全体及び周辺の整備についての一体的な検討を進めているため、明石港親水施設等整備について、検討を重ねており、具体的に事業として実施できていないが、旧灯台周辺の草刈り及び護岸のフェンスの改修等、最低限の維持補修を行っている。フェリー乗り場跡地や海上交通周辺における憩いの場を創出することにより、観光客等の集客力及び回遊性の向上を図る。
事業の今後について	砂利揚げ場及びフェリー乗り場跡地等明石港周辺との一体的な整備が必要であるため、県が策定した「明石港東外港地区再開発計画」及び市が策定に向けて取り組んでいる「明石港周辺利活用計画」と整合性を図った上で、事業化する。

④ あかしこども広場整備事業（明石市）

事業実施期間	平成 26 年度～令和 2 年度【実施中】
事業概要	「明石駅前再開発ビル（パピオスあかし）」内に子どもを中心とした多様な交流の創出や、健全な居場所となりまちを元気にするための拠点及び次世代の育成と子育て支援を促進するためのこども健やかひろばを整備し、プレイルームや子育て関連イベント等の運営を行う。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成30年度～令和2年度）
事業効果及び進捗状況	明石駅南側（あかしこども広場側）の通行量については、再開発ビル整備完了前の平成 28 年度 15,354 人から平成 30 年度 33,115 人（平成 29 年度 26,262 人）と約 18,000 人増加しており、あかしこども広場を含む再開発ビル整備により、明石駅から南側への通行量が増加している。
事業の今後について	平成 28 年度ハード事業完了。引き続き子育て関連イベント等ソフト事業を実施し、利用者の増加及び中心市街地の回遊性の向上に向けた施策を推進していく。

⑤ あかし市民広場整備事業（明石市）

事業実施期間	平成 26 年度～令和 2 年度【実施中】
事業概要	「明石駅前再開発ビル（パピオスあかし）」内に市民が集い、賑わい、憩う空間で、情報発信の拠点となるイベント広場空間を整備し、市内の観光等の情報発信やイベントを実施する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成30年度～令和2年度）
事業効果及び進捗状況	平成 28 年 12 月にオープンした。平成 30 年度のイベント利用率は平日 68%、休日 99%で平均 78%（平成 29 年度：平日 68%・休日 99%・平均 82%）あり、ほぼ毎日定期的にイベントが行われ、市内外から多くの人が集まり、集客効果が高い。イベント開催日以外は憩いの場として活用されている。平成 30 年度は 1 日当たり 21,654 人（平成 29 年度：19,370 人）が市民広場を通行しており、回遊性向上の中心となっている。
事業の今後について	平成 28 年度ハード事業完了。引き続きイベント等ソフト事業を実施し、利用者の増加に向けた施策を推進していく。

⑥ あかし市民図書館整備事業（明石市）

事業実施期間	平成 26 年度～平成 28 年度【済】
事業概要	「明石駅前再開発ビル（パピオスあかし）」内に、「本のまち」という新たな明石の魅力を発信する拠点として市民図書館を整備し、市民等が憩う滞在型図書館として運営を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	明石駅南側（あかし市民図書館側）の通行量については、再開発ビル整備完了前の平成 28 年度 15,354 人から平成 30 年度 33,115 人（平成 29 年度 26,262 人）と約 18,000 人増加しており、あかし市民図書館を含む再開発ビル整備により、明石駅から南側への通行量が増加している。
事業の今後について	平成 28 年度にハード事業完了。引き続きソフト事業である「本のまち明石関連事業」で「あかし市民図書館」の来館者の増加及び中心市街地の回遊性の向上に向けた施策を推進していく。

⑦ 駅前高層住宅整備事業（民間事業者）

事業実施期間	平成 26 年度～平成 28 年度【済】
事業概要	「明石駅前再開発ビル（パピオスあかし）」内に都市型高層住宅を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成 29 年 3 月から入居開始となった。明石市内最高層・最高価格のタワーマンションで注目を浴び、総戸数 216 戸のうち、販売対象戸数が 199 戸あり、即日完売となった。本高層住宅が区域内にある大明石町 1 丁目の人口については、平成 28 年度 1,097 人から平成 30 年度 1,540 人（平成 29 年度 1,465 人）と増加し続けており、転入した住民による新たな回遊性の創出と通行量の増加に貢献している。
事業の今後について	平成 28 年度事業完了

⑧ 大型観光バス誘致促進事業（(一社) 明石観光協会、明石市)

事業実施期間	平成 22 年度～【実施中】
事業概要	既存の大蔵海岸や明石公園内に加え、中心市街地内に複数の大型バス乗降場を設け、旅行会社へのPRや駐車場案内マップの作成等を行う。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成30年度～令和2年度）
事業効果及び進捗状況	大型観光バス駐車場設置には至っていないが、旅行会社へのPR及び駐車場案内マップを作成し、旅行会社へのPRを行っており、中心市街地を訪れる人が増加している。
事業の今後について	大型バス駐車場の整備場所を検討し。観光バスで多くの観光客が来街するよう引き続き旅行会社にPRを行い、更なる来街者の増加を図る。

⑨ 明石まちなかバル事業（明石まちなかバル実行委員会）

事業実施期間	平成 23 年度～【実施中】
事業概要	商店街が一体となり各店連携しながら、販売促進を兼ねた事業として、飲食店を中心としたバル事業を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成 23 年の第 1 回から計 15 回開催しており、平成 30 年度は 6 月と 11 月に実施した。参加店舗数及びチケット販売額は当初から増加し、維持されており、中心市街地の恒例イベントとして定着し、毎回多くの人を訪れている。中心市街地の主要な商店街である魚の棚商店街西口の通行量については、平成 28 年度の 3,742 人から平成 30 年度 4,078 人（平成 29 年度 4,818 人）と 336 人増加しており、中心市街地南側の商店街を訪れる人が増加している。
事業の今後について	今後もバル事業で集客することで商店街のPRを行い、バル当日だけでなく後日の来街を促し、来街目的の創出及び回遊性の向上を図る。

⑩ ほんまち三白館活用事業（本町商店街振興組合・各商店街）

事業実施期間	平成 27 年度～【実施中】
事業概要	大衆演劇場に改修されたほんまち三白館において、大衆演劇の公演や近隣店舗との提携事業を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成 27 年 12 月に「ほんまち三白館」としてオープンした。毎月劇団が入れ替わり、1 日 2 回ほぼ毎日公演しており、来館者数は、開館以来堅調に推移している。国道 2 号立体横断歩行者道路から「ほんまち三白館」に南下する道の途中である本町通り中央北側の通行量については、平成 28 年度の 900 人から平成 30 年度 1,303 人(平成 29 年度 1,268 人)と 403 人増加しており、中心市街地南側の商店街を訪れる人が増加している。
事業の今後について	中心市街地の南に位置し、市民や文化の交流拠点となっており、今後も集客効果を周辺地域に波及できる取り組みを推進し、回遊性の向上を図る。

⑪ 明石海峡クルーズ事業（榎淡路ジェノバライン）

事業実施期間	平成 26 年度～【実施中】
事業概要	淡路ジェノバラインによる明石港～明石海峡大橋～岩屋港までの海と周辺資源を活かしたミニクルーズ事業を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	毎日実施しているミニクルーズだけでなく、島巡り及び花火観覧クルーズ等イベント事業も実施し、「海峡のまち明石」を広く PR している。ジェノバラインの乗船者数は増加傾向であり、明淡通りから明石港に南下する道の途中である玉沢ビル前の通行量については、平成 28 年度の 2,583 人から平成 30 年度 2,546 人（平成 29 年度 2,457 人）と堅調に推移している。
事業の今後について	中心市街地の南に位置し、海上交通の拠点として、引き続き海の魅力を PR し、乗船者の増加及び回遊性の向上を図る。

●目標達成の見通し及び今後の対策

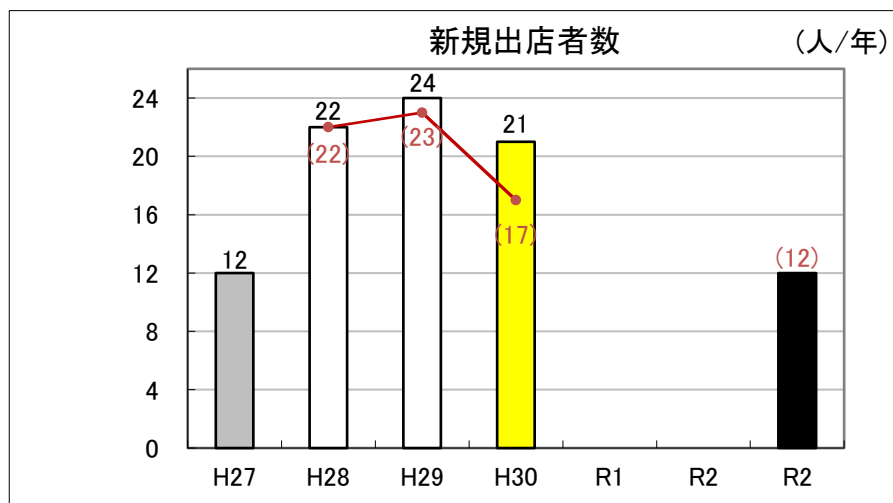
「明石駅前再開発ビル（パピオスあかし）」オープンから 2 年が経過し、来街者が増加し、歩行者・自転車通行量も 3 年連続増加し、目標値とほぼ同じ水準となった。

「明石駅」から「明石駅前再開発ビル（パピオスあかし）」内の「あかし市民広場」、「国道 2 号立体横断歩行者道路」を通り、「国道 2 号南側商店街」まで、天候に左右されることなく通行できるようになった。増加した来街者を集客効果の高い「明石駅前再開発ビル（パピオスあかし）」内にとどめることなく、「国道 2 号南側商店街」に誘導し、通行量を増加させる必要がある。そのために「明石駅前再開発ビル（パピオスあかし）」と「国道 2 号南側商店街」が連携したイベントを展開し、来街者を国道 2 号南側の商店街へと回遊させるため、商店街が積極的に魅力を発信するだけでなく、「あかし市民広場」のイベントスペースの有効活用や「あかし市民図書館」等との連携を積極的に行い、「ほんまち三白館」の集客力を生かしながら「明石まちなかバル」、

等のイベントを更に定着させ、商店街へ足を運ぶ目的を創出していくことにより目標の達成は可能だと思われる。

「新規出店者数」 ※目標設定の考え方基本計画 P77～P81 参照

●調査結果の推移



年	店/年 (平均)
H27	12 (基準年値)
H28	22 (22)
H29	24 (23)
H30	17 (21)
H31	
H32	
H32	(12) (目標値)

※調査方法：毎年10月ごろに店舗を実地視察し、前年度からの店舗の変化状況を調査する

※調査日：平成30年10月23日(火曜日)から10月25日(木曜日)まで

※調査主体：明石市

※調査対象：国道2号線より南側の商店街区域の代表的な7つの通りに面した店舗

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

① 景観向上施策推進事業 (各商店街・明石市)

事業実施期間	平成23年度～【実施中】
事業概要	景観資源として重要な商店街や明石駅前周辺において、景観づくりの取り組みを進めるほか、都市景観形成地区指定を目指した取り組みの支援を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 (総務省) (平成30年度～令和2年度)
事業効果及び進捗状況	各商店街における景観づくりの取り組みを推進し支援を行い、魅力的な街並みを創造し、商業環境の向上を図る。平成26年度に「ほんまち商店街まちなみ景観ガイドライン」を策定し、平成30年度に「明淡通り景観ガイドライン」を策定し、運用している。各商店街が主体となって検討し、各商店街の強みを生かしたガイドラインを策定し、商店街の魅力向上及び新規出店者の増加を図っており、事務所等の入替があった。
事業の今後について	各商店街の特長を生かし、商店街の魅力を向上させるため、景観ガイドラインの策定等景観向上施策を推進していく。

② 国道 2 号立体横断歩行者道路整備（明石市）

事業実施期間	平成 20 年度～平成 28 年度【済】
事業概要	「明石駅前再開発ビル（パピオスあかし）」から国道 2 号南側までの国道 2 号を横断する立体横断デッキを整備する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（道路事業（街路）および一体の効果促進事業）（国土交通省）（平成 25 年度～平成 28 年度）
事業効果及び進捗状況	平成 28 年 12 月に供用開始した。立体横断歩行者道路を通り、魚の棚商店街を訪れる人が増加し、立体横断歩行者道路近くの場所で入替があった。
事業の今後について	平成 28 年度事業完了

③ 市道明石中央 42 号線ほか歩行環境整備（明石市）

事業実施期間	平成 27 年度～平成 30 年度【済】 （認定基本計画：平成 27 年度～令和 2 年度）
事業概要	本町地区を中心とした商店街及び明石港付近における道路の美装化及び排水機能の改善を行う。
国の支援措置名及び支援期間	防災・安全交付金（道路事業）（国土交通省）（平成 29 年度）
事業効果及び進捗状況	市道明石中央 37 号線（魚の棚商店街）及び市道明石中央 42 号線の道路改良舗装工事を実施し、道路が美装化され、良好な歩行環境が確保されたことにより、商業環境が向上し、新規出店や入替があった。
事業の今後について	平成 30 年度事業完了

④ 県道明石高砂線（明淡線）道路整備事業（兵庫県）

事業実施期間	平成 21 年度～平成 28 年度【済】
事業概要	明淡通りの歩行環境整備を行う。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（道路事業）（平成 21 年度～平成 28 年度）
事業効果及び進捗状況	歩道上の老朽化した屋根を撤去し、歩道の拡幅及び段差解消を行い、誰もが気軽に安心して商店街を回遊できるようになり、通行量が増え、明淡通りで新規出店があった。
事業の今後について	平成 28 年度事業完了

⑤ 国道 2 号明石駅前交差点改良（国土交通省）

事業実施期間	平成 20 年度～【実施中】
事業概要	変則的な交差点である明石駅前交差点を拡幅、改良し、渋滞や交通安全対策を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国直轄事業
事業効果及び進捗状況	平成22年度から具体的な事業が開始されている。本市は、平成24年度から平成29年度まで用地取得事務を受託し、国と連携して事業の推進に取り組んできた。渋滞の解消や交通事故の危険性を減少させ、中心市街地内主要施設へのアクセス改善と回遊性を高め、商店街を訪れる人を増加させ、商業環境の向上を図る。
事業の今後について	令和 2 年 3 月末の工期で道路改良工事が進められている。

⑥ 明淡線自転車駐車場整備事業（明石市）

事業実施期間	平成 27 年度～平成 28 年度【済】
事業概要	歩道拡幅に合わせた路上でのラック式駐輪施設の整備を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	道路改良工事に併せ、歩道にラック式駐輪施設を整備した。放置自転車がなくなり、歩行環境が向上しただけでなく、安心して駐輪するできことにより、自転車での来街者を増加させ、商店街等の利用者の増加を図っており、明淡通りで新規出店があった。
事業の今後について	平成 28 年度事業完了

⑦ 明石港親水施設等整備事業（明石市）

事業実施期間	平成 28 年度～【実施中】
事業概要	フェリー乗り場跡地に隣接する市が寄贈を受けた栈橋などのプロムナード、高速船乗り場や水産物分場近くの休憩施設及び旧灯台の景観整備などの親水空間の整備を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	明石港全体及び周辺の整備についての一体的な検討を進めているため、明石港親水施設等整備について、検討を重ねており、具体的に事業として実施できていないが、旧灯台周辺の草刈り及び護岸のフェンスの改修等、最低限の維持補修を行っている。フェリー乗り場跡地や海上交通周辺における憩いの場を創出することにより、観光客等の集客力及び回遊性の向上を図る。
事業の今後について	砂利揚げ場及びフェリー乗り場跡地等明石港周辺との一体的な整備が必要であるため、県が策定した「明石港東外港地区再開発計画」及び市が策定に向けて取り組んでいる「明石港周辺利活用計画」と整合性を図った上で、事業化する。

⑧ 明石港駐輪場改修事業（明石市）

事業実施期間	平成 28 年度【済】
事業概要	高速船乗り場に隣接する駐輪場の環境改善を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	明石港無料駐輪場増設工事を実施し、駐輪スペースを 290 台から 450 台に 160 台分増加させ、転落防止用フェンスの設置工事を実施した。 明石港に寄港する高速船の利用者だけでなく、明石港やその周辺の商店街等を回遊する来街者が利用できる駐輪場として改修することで、中心市街地南側の回遊性を向上させ、商店街を訪れる人を増やし、商業環境の向上を図っており、明石港周辺で新規出店があった。
事業の今後について	平成 28 年度事業完了

⑨ 春旬祭事業（春旬祭実行委員会）

事業実施期間	平成 14 年度～【実施中】
事業概要	明石に春を告げる魚であるイカナゴ漁の解禁に合わせ、「魚を楽しむまち」をテーマとして魚の棚商店街を中心に各商店街が連携し、明石らしいお祭りを行う。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成30年度～令和2年度）
事業効果及び進捗状況	平成 14 年の第 1 回から計 16 回開催している定着したイベントで、平成 30 年度は平成 31 年 3 月 9 日に開催した。明石の特産品である魚や地酒等を P R し、来街者が楽しめる祭りであり、多くの出店があった。物販だけでなく、多くのイベントを実施し、新たな来街者に商店街の魅力を感じてもらうことにより、商業環境の向上を図っている。
事業の今後について	いかなご漁の解禁に合わせて実施しているが、いかなご漁の解禁期間が短く、不確定となってきた。明石の特産品である魚や地酒等を P R し、来街者が楽しめる明石ならではの祭りという理念を踏まえ、今後の在り方等について検討していく。

⑩ まち魅力情報発信事業（中心市街地活性化協議会商業活性化分科会）

事業実施期間	平成 28 年度～【実施中】
事業概要	<p>商業者や住民などが主体になって、中心市街地の魅力について、様々な手法により積極的にプロモーションを行う。</p> <p>中心市街地のお店や公共施設などがもつ魅力について、マップやホームページ、会報誌の発行や各種イベントとのタイアップなど様々な手法により情報発信を行い、魅力向上を図っている。</p>
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成30年度～令和2年度）
事業効果及び進捗状況	各商店街で積極的に情報発信を行っているだけでなく、「明石まちなかバル」「春旬祭」等のイベントを通じて一体的に商店街の広報を行い、各商店街が独自に手掛ける事業の PR にも活用されている。中心市街地全域のイベント情報の発信を継続的に行っており、商店街の認知度を高めている。
事業の今後について	引き続き、中心市街地活性化協議会商業活性化分科会と各商店街が連携し、商店街の魅力を発信していく。

⑪ 中心市街地の空間有効活用事業（中心市街地活性化協議会商業活性化分科会）

事業実施期間	平成 28 年度～【実施中】
事業概要	事業者や住民などが主体になって、中心市街地内にある未利用地や公共空間において、イベントなどの有効活用を行う。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成30年度～令和2年度）
事業効果及び進捗状況	中心市街地内にある空き地や空き家、商店街通りの道路などの公共空間など、場所や時間を考慮して有効活用し、中心市街地への来街目的の創出と魅力向上を図る。具体的な事業の実施方法等については、明石市中心市街地活性化協議会商業活性化分科会において、検討を重ねている。
事業の今後について	魚の棚商店街内で実施している青空楽市等、各商店街独自に実施しているため、中心市街地活性化協議会商業活性化分科会において、各商店街の取組状況を分析し、課題の整理を行い、中心市街地全体の事業として早期に事業化を図る。

⑫ ほんまち三白館活用事業（本町商店街振興組合・各商店街）

事業実施期間	平成 27 年度～【実施中】
事業概要	大衆演劇場に改修されたほんまち三白館において、大衆演劇の公演や近隣店舗との提携事業を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	毎月劇団が入れ替わり、1日2回ほぼ毎日公演しており、「劇場のあるまち」明石ほんまち商店街として認知度が高まっている。
事業の今後について	中心市街地の南に位置し、市民や文化の交流拠点となっており、集客効果が高く、劇場界限だけでなく、商店街全体に人が流れるよう連携していく。

●目標達成の見通し及び今後の対策

「明石駅前再開発ビル（パピオスあかし）」オープン以降の来街者の増加及び商店街周辺の歩行環境整備等の商業環境の向上により、新規出店者数が増加したため、目標を達成した。

今後も商店街の魅力を積極的に発信し、商店街の価値を高め、来街者を増やし、新規出店の持続を図ることにより、目標値の達成は可能である。